

7 地域資源由来の鶏ふん堆肥の利用拡大（はね営農組合）

○ 地域の7つの集落営農組織で「地域資源由来肥料（鶏ふん）利用ネットワーク」を形成し、ネットワーク構成員のはね営農組合がコントラクターとなり、集落営農組織の水田ほ場に鶏ふん堆肥を散布。

■ 国内資源の種類

■ 肥料の種類・肥料名称

・ 鶏ふん

- ・ 種類：堆肥（特殊肥料）
- ・ 肥料名：発酵鶏ふん（粉状）、鶏糞ペレット（粒状）
- ・ 粉状、粒状ともに有機JAS資材として利用可能（登録済）

■ 作物

■ 主成分の含有量(%）、特徴等

・ 水稻

	N	P	K
発酵鶏ふん（粉状）	3.7	4.4	4.2
鶏糞ペレット（粒状）	3.7	4.3	4.1

■ 取組の経緯・内容・成果（見込み）

取組の経緯

- ・ JAしまね石見銀山地区本部管内（島根県大田市）には県内有数の採卵鶏農場があり、地域資源由来肥料（鶏ふん堆肥）は生産されるものの、大規模に散布可能な散布機や、散布を担うコントラクター等が育成されていなかったことから、鶏ふん堆肥の利用拡大には至っていなかった。
- ・ このため、地区内の7集落営農組織で「地域資源由来肥料（鶏ふん）利用ネットワーク」を形成し、鶏ふん堆肥の散布を行う地域内のコントラクターを育成。

取組の内容

- ・ ネットワークで水稻の生育状況や適正な散布量の共有を行い、ネットワーク内のはね営農組合がコントラクターとなり、管内の水田ほ場に鶏ふん堆肥を散布。

成果

- ・ 鶏ふん堆肥の利用拡大により化学肥料の使用低減に伴う栽培コストの削減、価格高騰や供給不安定化等といったリスクの低減になっている。
- ・ 大田市内で7集落営農組織が先行して鶏ふん堆肥の利用を始めたことで、他の法人や農業者にも取組が広がる見込み。

■ 主たる取組主体と肥料利用までの流れ

資源供給者

肥料製造者

肥料利用者

旭養鶏舎（島根県大田市）
鶏ふん → 発酵鶏ふん
鶏糞ペレット
製造

7集落営農組織
（島根県大田市）

作業委託

鶏ふん堆肥
の散布

コントラクター
（はね営農組合）



■ 今後の課題・取組

- ・ 令和5年秋から本格散布し、水稻品種ごとの栽培暦（基肥鶏ふん堆肥バージョン）を作成予定。



散布機に入れられた肥料